

兵庫県指導林家制度発足 30周年記念行事



兵庫県指導林家会主催『儲ける間伐講習会』

と き 平成 21 年 2 月 5 日(木)

場 所 パレス神戸 大会議室

主 催 兵庫県指導林家会
共 催 兵庫県林業改良普及協会
(社) 兵庫県林業会議
兵庫県森林組合連合会
(社) 兵庫県治山林道協会
兵庫県木材業協同組合連合会
兵庫県林業種苗協同組合
(社) 兵庫県緑化推進協会
(財) 兵庫県営林緑化労働基金
兵庫県林業研究グループ連絡協議会
後 援 林業・木材製造業労働災害防止協会兵庫県支部
兵庫県

兵庫県指導林家制度発足 30 周年記念行事次第

1 開 会 13:30～13:50

- (1) あいさつ 兵庫県指導林家会会長 春名 善樹
- (2) 来賓あいさつ 兵庫県知事 井戸 敏三 様

2 記念講演 13:50～15:00

演題：地域林業の支えと将来展望について

筑波大学名誉教授 熊崎 実 氏

3 パネルディスカッション 15:10～16:30

テーマ：持続可能な林業のあり方について

コーディネーター

京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授 長谷川 尚史氏

パネリスト

森林所有者	前田林業株式会社	専務取締役	前田 多恵子氏
指導林家			小林 温 氏
青年林業士			山田 尚弘 氏
木材利用者	有限会社ハヤシ工務店	代表取締役	林 勝也 氏
行政機関	兵庫県農政環境部農林水産局林務課長		菅原 健 氏

4 閉会のあいさつ 16:30

兵庫県指導林家会副会長 高橋 延尚

◎ 記念パーティー 18:00～19:30 パレス神戸

記念講演

地域林業の支えと将来展望について

筑波大学名誉教授

熊崎 実(くまざき みのる)氏

《略歴》

1935年岐阜県生まれ

農林省林業試験場(現・森林総合研究所)林業経営部長、筑波大学農林学系教授、岐阜県立森林文化アカデミー学長を歴任。

現在は、筑波大学名誉教授、日本木質ペレット協会会長、バイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ委員、国内クレジット認証委員会委員。

《主な著書》

「林業経営読本」日本林業調査会(1989)

「地球環境と森林」全国林業改良普及協会(1993)

「木質バイオマス発電への期待」全国林業改良普及協会(1993)など

《主な訳書》

「森と人間の歴史」日本林業調査会(1990)

「世界の森林資源」築地書館(1992)

「日本人はどのように森をつくってきたか」築地書館(1998)

「樹木学」築地書館(2001)など

パネルディスカッション

持続可能な林業のあり方について

コーディネーター

京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授
長谷川 尚史(はせがわ ひさし)氏

《略歴、著書》

1969年京都市生まれ

京都大学フィールド科学教育研究センター 里山資源保全学分野 准教授
京都大学大学院農学研究科林学専攻修了、京大博士(農学)、京都大学農学部附属演習林、同農学研究科森林利用学分野を経て、現分野の准教授。

専門は森林利用学で、特にGPS、GIS、リモートセンシングデータなどを用いて、林地に適した森林管理手法を考える「精密林業」をテーマとした研究を行っている。

近年は素材生産作業システムのモデル化とシミュレーションにも取り組んでいる。

著書に『豊かな森へ』(訳)、『技術的観点からみた人工林の施業区分』(共著)、『GPSを用いた野生動物の生息地評価と森林配置』(共著)などがある。

パネリスト

前田林業株式会社

専務取締役 前田 多恵子(まえだ たえこ)氏

《略歴》 兵庫県生まれ。大学を卒業後、木造住宅メーカーに勤務
フランス留学後、前田林業株式会社に入社
2003年 兵庫県森林審議会委員
2006年 県産木材供給センター事業化検討委員会委員
2007年 林野庁林政審議会委員

社有林560ha(所在地:岡山県、三重県、和歌山県)を経営。住宅メーカー勤務時代の経験を生かし、ニーズに合わせた原木の供給とは何かを考えながら、積極的な原木丸太販売の営業を展開。

平成18年度から岡山県新生産システム推進対策事業に森林所有者側から参加。平成20年から超高強力繊維ロープを活用した作業システムの構築による作業コスト削減に取り組んでいる。

パネリスト

小林 温(こばやし おん) 氏

- 《略歴》 1952年 兵庫県生まれ
1977年 大学卒業後大阪中央経理研究所に勤務
1980年 林業技術を習得するために京都北山の加藤林産に勤務
1982年 所有林の経営開始
1999年 兵庫県指導林家に認定。現在、兵庫県指導林家会理事
2002年 生栖生産森林組合長

現在、息子との二人作業で、積極的な作業道開設や低コスト作業システム構築による経営を進めており、所有林 110ha の作業道延長は 12,000m、林内路網密度は 100m /ha 以上になる。また、145ha を所有する生栖生産森林組合長でもある。

平成 16 年の台風による作業道被害で壊れにくい道づくりを痛感。生栖生産森林組合で間伐するための作業道開設に当たり、平成 19 年に県指導林家会の「壊れにくい道づくり講習会」を招致、道づくりの大家として有名な大阪府の指導林家大橋慶三郎氏等を講師に招くなど、大橋式作業道開設に力を注いでいる。

パネリスト

山田 尚弘(やまだ なおひろ) 氏

- 《略歴》 1968年 兵庫県生まれ
1990年 大学卒業後東京のミサワリゾート(株)に勤務
1993年 林業技術を習得するために生野町森林組合伐採作業班員
1994年 家業の林業に従事
2002年 兵庫県青年林業士に認定。現在、兵庫県指導林家会副会長

所有林 330ha を父親とともに、28 歳の若者を雇用して経営。1997 年に大橋慶三郎氏の一番若い門下生となり、作業道開設(林内路網密度 200m /ha 以上)を意欲的に行い、高密度路網による利用間伐に取り組んでいる。

最近、注文住宅を建てる工務店や施主に、70~80 年生のスギ・ヒノキ間伐林分の中から直接見て選んでもらう注文販売に力を注いでいる。

また、県の主催する低コスト作業システム研修等の講師も務める。

パネリスト

(有)ハヤシ工務店

代表取締役 林 勝也(はやし かつや) 氏

- 《略歴》 1968年 兵庫県生まれ
1988年 専門学校卒業後、木造住宅施工会社に勤務
1991年 家業の(有)ハヤシ工務店に入社
2003年 (有)ハヤシ工務店代表取締役
2004年 “地産地消”と“環境共生”をテーマにした家づくりに取り組む

(有)ハヤシ工務店の二代目として、現在10名のスタッフで兵庫県産材を約70%使用した住宅を年間約7棟建築。2003年に林業家山田氏親子と出会い、兵庫県内のできる「顔の見える木材での家づくり」の可能性を発見。

エコ体験バスツアーを開催して、消費者に直接生産地で山の現状を見てもらい、木でつくる長持ちする住まいづくりが環境と家計に優しい影響を与えることなどを伝え、納得のいく家づくりを実践している。

NPO法人住宅長期保証支援センターやNPO法人ひょうご新民法21などの団体に加盟。

パネリスト

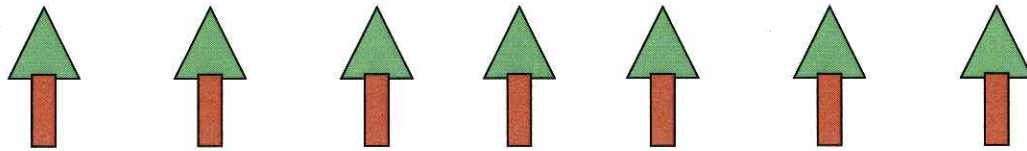
兵庫県農政環境部農林水産局

林務課長 菅原 健(すがはら けん) 氏

- 《略歴》 1953年 大阪府生まれ。大学を卒業後、兵庫県に勤務
2003年 兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり室主幹
2006年 兵庫県農林水産部林務課農林水産局林務課主幹
2007年 兵庫県農政環境部農林水産局林務課長

兵庫県では、昭和30年代から盛んに植栽されたスギ・ヒノキの人工林面積は約221千haに達しており、資源として、十分、利用可能になってきている。

この豊富な森林資源と大消費地に近い地の利を生かし、県産木材供給の構造改革による資源循環型林業を確立するため、品質・価格・供給力で競争力のある供給システムの構築を目指した県産木材供給センター(協同組合兵庫木材センター:宍粟市一宮町)を平成22年度の稼働を目指して整備を進めている。



【記念行事の開催について】

兵庫県知事の認定制度として、昭和 53 年度に発足した「指導林家」と「青年林業士」は、今年度で 30 周年を迎えました。

認定者も指導林家 82 名、45 歳以下の青年林業士が 18 名と合わせて 100 名に達しました。

また、平成 14 年度には兵庫県指導林家会を設立して、県下林業振興のために各種活動を展開しているところです。

私たち指導林家と青年林業士は、この 30 年を節目に、さらに時代の要請に対応するような意識の高揚を図るために、井戸敏三知事を来賓に迎えまして、記念行事を開催することにいたしました。

【記念講演について】

熊崎実筑波大学名誉教授によって「地域林業の支えと将来展望について」と題し、希望と元気を与える講演をしていただきます。

【パネルディスカッションについて】

京都議定書目標達成計画において、3.8%の CO₂ 削減を森林が担うと定められ、森林は地球温暖化防止対策の中で、大変重要な位置を占めています。

適正な間伐が CO₂ の吸収を高めることから、施業の集約化や間伐材の利用促進が最も必要であり、兵庫県においても、緑豊かな森林は県民共有の財産で、CO₂ の吸収機能はもとより、山地災害防止機能等県民生活に深く関わっていることから、平成 18 年より県民緑税による「災害に強い森づくり」が進められています。

また、充実しつつある森林資源の有効活用を図るためには、外材にも対抗できるような、安定的で、かつ低コストな生産体制を整備する必要性から、民間活力を活かした「県産木材供給センター」が平成 22 年度の稼働に向けて進められています。

このような状況に鑑み、今回は、「持続可能な林業のあり方について」をテーマに京都大学フィールド科学教育研究センターの長谷川尚史准教授をコーディネーターに、5 人のパネリストによって、それぞれの立場から思いを発信していただきます。

兵庫県指導林家会は、このパネルディスカッションを通じて、間伐による森林の適正な管理や吸収源対策による地球の温暖化防止等の課題に適応していくには、業(なりわい)としての持続可能な林業が必要であることを広くアピールすることとしています。